

経済・金融 フラッシュ

【6月米貿易統計】 2カ月連続で貿易赤字は縮小

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:2カ月連続の赤字幅縮小

8月6日、米商務省の国勢調査局および経済分析局（B E A）は6月の貿易統計（速報値）を公表した。6月の財・サービスを合計した輸出額（季節調整済¹、国際収支ベース²）は1958.63億ドル、輸入額（同）は2374.01億ドルとなり、貿易収支は▲415.38億ドル（前月改定値：▲446.63億ドル）であった（図表1）。その結果、貿易赤字は5月から31.25億ドル縮小している（前月は同23.74億ドルの赤字縮小）。

市場予想は6月の貿易収支で▲448億ドル（Bloomberg集計の中央値）と赤字幅の拡大が予想されていたが、2カ月連続して赤字幅が縮小するという結果となった。

輸出入の伸び率を前月比年率で見ると輸出は+1.6%（前月：同+13.8%）、輸入は▲13.4%（前月：同▲1.4%）となった。前年同月比では、輸出は+2.9%（前月：同+4.5%）、輸入は+4.6%（前月：同+3.5%）であった。貿易収支を前年同月の2013年6月と比較すると、49.86億ドルの赤字拡大（前月は1.68億ドルの赤字縮小）だった。

貿易収支は2カ月連続して赤字幅が縮小したが、足もとでは米国の景気拡大に伴って財輸入の伸びが加速していることが目立つ（後掲図表9）。そのため、今後は貿易収支の赤字幅が拡大していくと思われる。

（図表1）



2. 結果の詳細:財輸入の増加が顕著

（サービス貿易）サービスの貿易黒字は頭打ちの状況が続く

6月のサービス貿易（国際収支ベース）を見ると、輸出額が589.93億ドル（財・サ輸出に対するシェア30.1%）、輸入額が402.46億ドル（財・サ輸入に対するシェア17.0%）となり収支は187.47億ドル（黒字）であった。伸び率は前月比年率で見ると、輸出が+2.7%（前月：同+8.6%）、輸入

¹ 以降、本稿では特に断わりのない限り、季節調整済系列について記載する。ただし、国別の貿易収支については月次ベースの季節調整系列が公表されていないため、原系列について記載する。

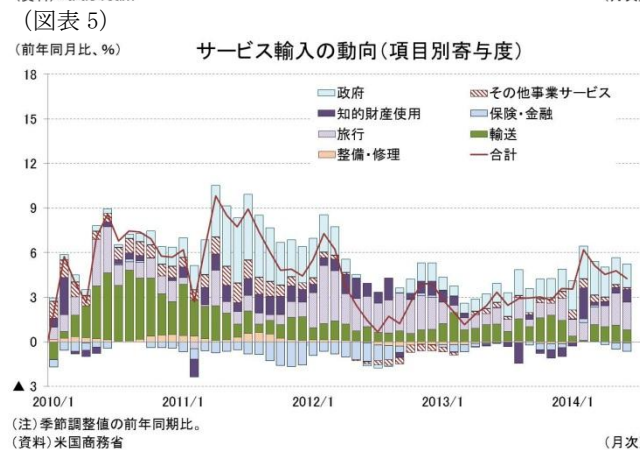
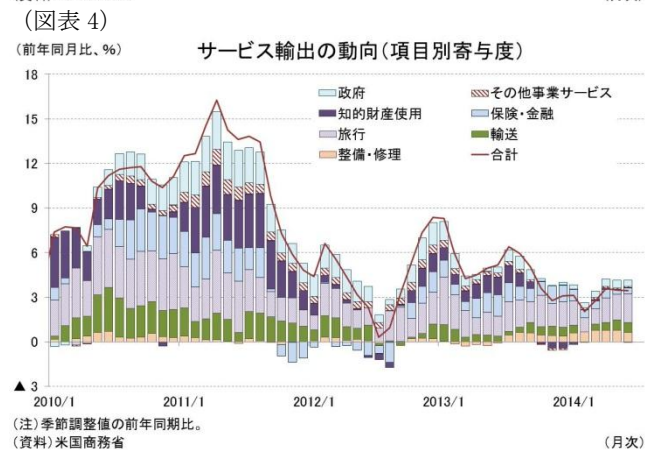
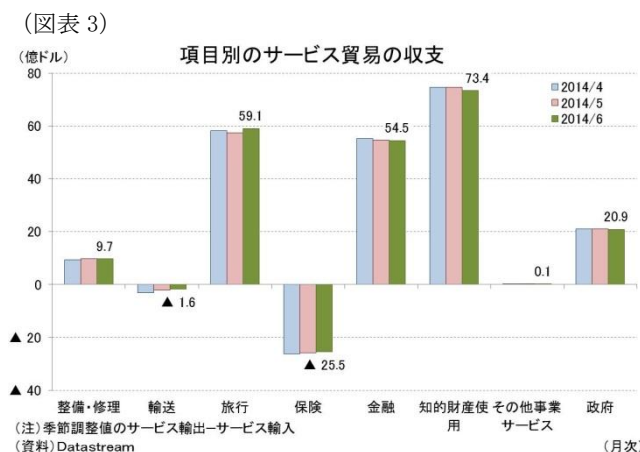
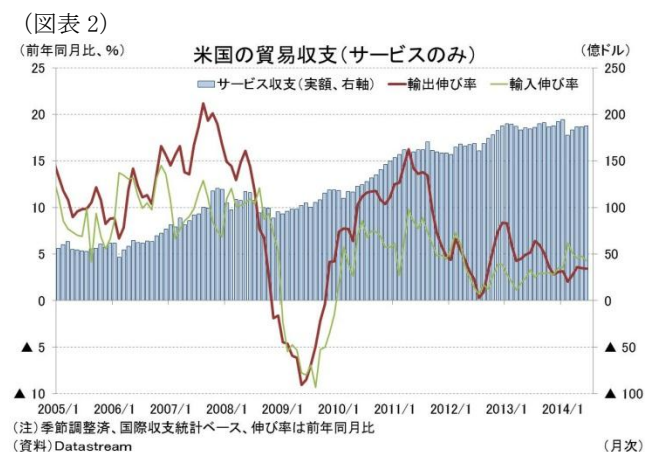
² 財貿易に関しては、国勢調査局が通関データをとりまとめ（センサスベース）、B E Aで国際収支統計や国民経済計算に沿ったデータに修正している（国際収支ベース）。ただし、品目別や国別の財貿易（月次ベース）はセンサスベースのみ公表されている。

が+1.2%（前月：同+12.1%）、前年同月比では輸出が+3.5%（前月：同+3.5%）、輸入が+4.3%（前月：同+4.8%）となった。

サービス収支は基調としては黒字が続いているものの、最近は輸入の伸びが輸出を上回っており、サービス収支の黒字額は頭打ちの状況が続いている（図表2）。

項目別に見ると、旅行、金融、知的財産使用権の各種サービスが相対的に大きな黒字を計上していることがサービス貿易全体の黒字につながっている（図表3）。ただし、このうち金融と知的財産使用権については6月の黒字幅が5月と比べて縮小している。

輸出入の伸び率（前年同月比）をそれぞれ項目別に見ると（図表4-5）、輸出は、整備・修理、輸送、旅行が伸びを牽引、輸入は輸送、旅行、知的財産使用権、政府が伸びを牽引している。輸出のうち、2013年まで比較的高い伸び率を記録していた知的財産使用権に伸び悩みが見られるため、足もとでは輸入の伸び率が輸出の伸び率を上回っている。

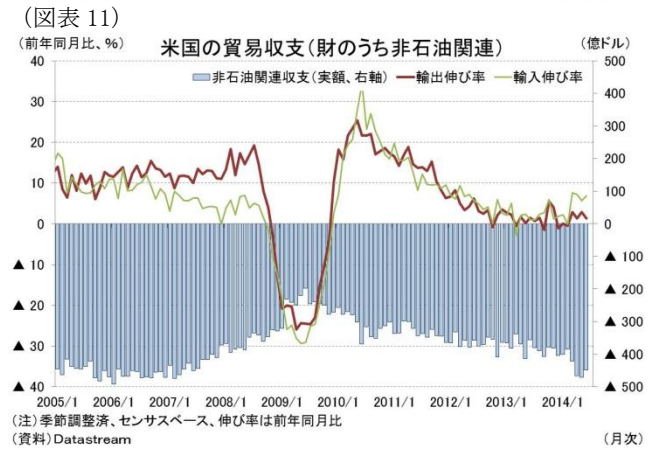
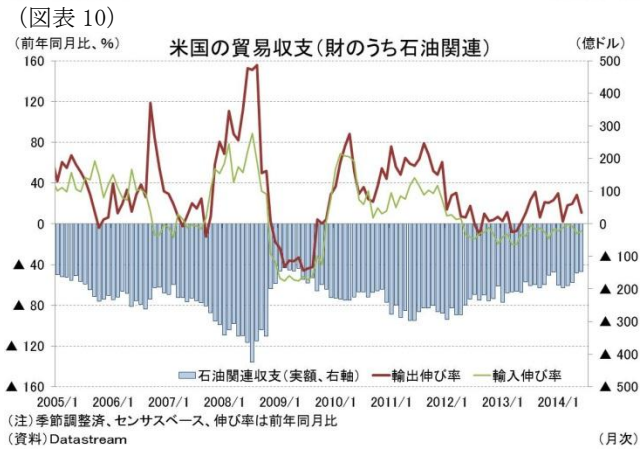
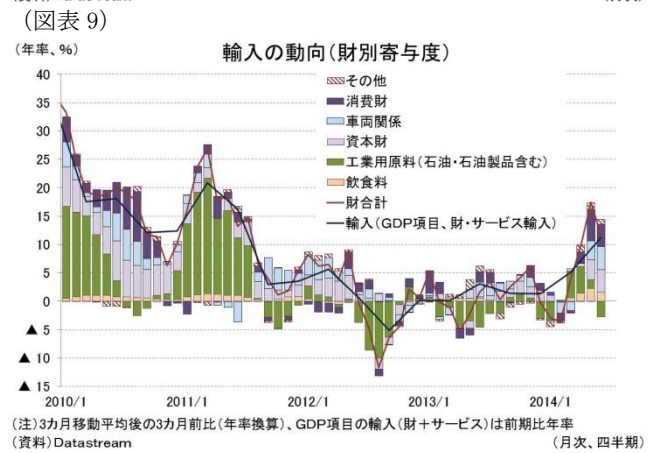
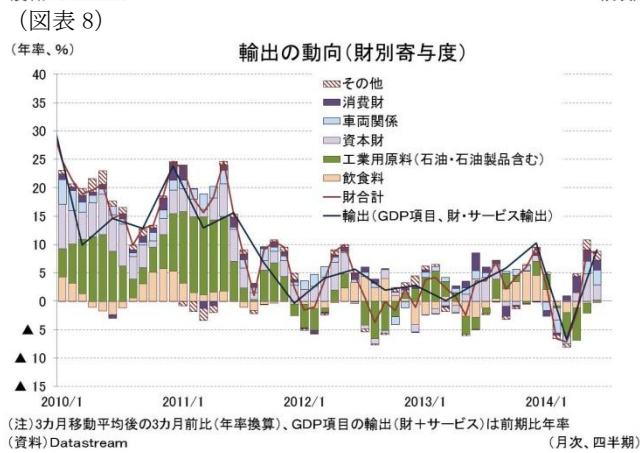
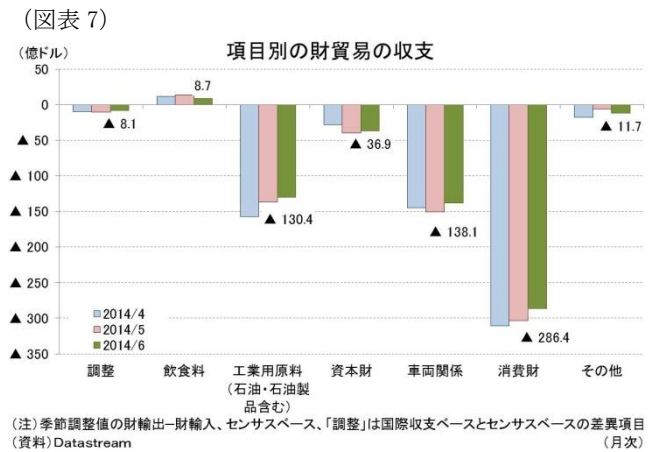


(財貿易・項目別) 財貿易の赤字は縮小

6月の財貿易を見ると、輸出額が1368.70億ドル（財・サ輸出に対するシェア69.9%）、輸入額が1971.55億ドル（財・サ輸入に対するシェア83.0%）となり貿易収支は▲602.85億ドル（赤字）であった。伸び率は前月比年率で見ると、輸出が+1.2%（前月：同+16.1%）、輸入が▲13.4%（前月：同▲1.4%）、前年同月比では輸出が+2.6%（前月：同+4.9%）、輸入が+4.7%（前月：同+3.3%）となった。

財収支（国際収支ベース）は2カ月連続で赤字幅が縮小している（図表6、センサスベースで見ても2カ月連続して赤字幅は縮小している）。背景には消費財や工業用原料での赤字が縮小したことが挙げられる（図表7）。

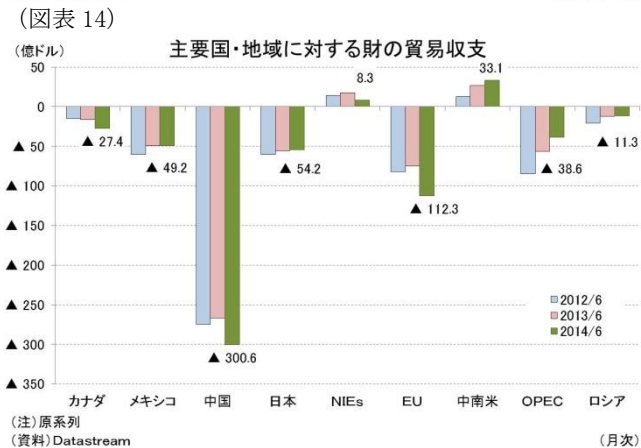
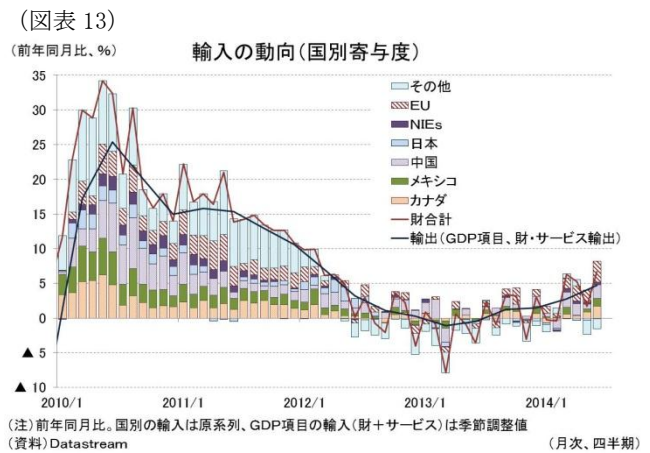
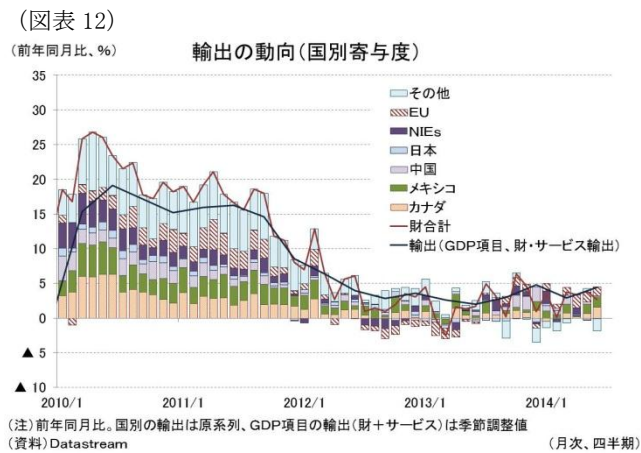
品目別の伸び率（3カ月移動平均後、3カ月前比）を見ると、輸出が総じて伸び悩んでいるのに対して、輸入は資本財、消費財、車両関係を中心に拡大基調にある。非石油関連と石油関連に分類すると、シェール革命の影響等から石油関連の収支の改善傾向が続く一方で、非石油関連の赤字幅の拡大が目立つ。今後については、米国経済が拡大基調にあることから、貿易収支の赤字幅拡大が見込まれる。



(財貿易・国別)中国、EU向けの貿易赤字が拡大

6月の国別の財貿易（原系列、センサスベース）の伸び率（前年同月比）を見ると、輸出については、NAFTA域内（カナダ・メキシコ）やEUを中心に拡大しているものの、全体で見ると伸び率の加速には至っておらず、伸び悩みが続いていると言える（図表12）。一方、輸入については同じNAFTA域内やEUからの輸入拡大が全体の輸入の伸び率を押し上げている。さらに中国からの輸入が加速していることが目立つ（図表13）。

その結果、主要国・地域に対する財貿易の収支については、中国やEUで赤字が拡大している（図表14）。また、NAFTA域内に関しては、輸出入ともに同様に伸びていることから貿易収支については前年と比較して際立った悪化も改善も見られない。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。